

2020年10月26日 宿利会長 開会挨拶

「新型コロナウイルスが鉄道輸送と都市構造に及ぼす影響に関するシンポジウム」

皆様こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。本日は「新型コロナウイルスが鉄道輸送と都市構造に及ぼす影響に関するシンポジウム」を開催しましたところ、こちらの会場にお越しの皆様とオンラインによる参加の皆様を合わせて全体で1200名という、大変多くの皆様にご参加いただきました。誠にありがとうございます。

さて、我が国の運輸・観光産業は、新型コロナウイルスの感染拡大に対処するための緊急事態宣言等の一連の措置により、未曾有の甚大な影響を受け、鉄道もその間、かつて例を見ない極端な需要の減少に直面しました。その後5月末の緊急事態宣言の解除後においても、鉄道は、徐々に需要回復傾向に転じたものの、一方で、テレワークの継続などによる勤務形態や通勤形態の変化、オンライン活用の普及などによる個人の移動や生活形態の変化、旅行需要の低迷などにより、なお引き続き需要の減少に直面しております。この傾向は、いずれ有効なワクチンの開発・普及などにより現在のコロナ禍が終息した後も、社会のデジタル化の進展や個人の価値観の多様化、さらには、企業の生産性向上施策などを背景とした働き方やライフスタイルの変化などの一層の進展によって、コロナの前の状況と比較して相当程度変質した形で継続するのではないかと見込まれます。

そこで、個人や企業のこのような行動変容が、鉄道利用の需要や形態、また都市の構造に与える影響などを見極め、これらの相互作用も勘案しつつ、今後の鉄道事業者の対応や都市のあり方を含めた総合的な交通施策・地域施策を検討していくことが極めて重要であると考えております。

当研究所といたしましては、コロナ禍が未だ終息していない状況の中ではありますが、行動変容の萌芽が観察されるこの時期に、この重要なテーマに関して、当研究所において今後継続的に取り組んでいくキックオフとして、現時点での情報の共有と問題意識の共有を図るために本シンポジウムを開催することといたしました。

本日基調講演をしていただきます政策研究大学院大学名誉教授の森地茂先生には、2012年から継続的に、当研究所が行う“今後の東京圏の鉄道のあり方と関連するまちづくりの課題についての調査研究”を委員長としてけん引していただいております。この調査研究は、鉄道事業者6社の皆様に多大なるご協力をいただきながら取り組んでいるもので、本日は森地先生のほか、岸井先生、太田さまと共に、これらの鉄道事業者6社の中から、3社の代表の方々にパネ

リストとしてご参加いただきますことに、厚く御礼申し上げます。

なお、運輸総合研究所では、8月に「新型コロナウイルス感染症による航空業界への影響およびその対応策」というテーマで運輸政策コロキウムを開催しました。オンラインを基本として、会場を併用しましたが、800名を超える皆様にご参加いただきました。また11月20日には「新型コロナウイルスによる観光への影響と今後の展望」というテーマでセミナーを予定しております。当研究所では新型コロナウイルスが運輸・観光各分野に与える影響を見極めるとともに、今後の対応策を検討するための取組みを今後継続的に実施していきたいと考えております。

最後に、本日のシンポジウムが日本財団のご支援によるものであることを申し添え、ご参加いただきました多くの皆様方にとりまして真に有益なものとなりますことを期待して、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。